

## 2021年度第2回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議 開催報告

日時：2021年10月30日（木）10～12時 オンライン開催

参加者：24名

2021年度第2回目ネットワーク会議は、「サステナブルな まちなか〔農〕への期待」をテーマに、「農」と「食」の取組を報告し、生物多様性の視点を加えて意見交換を行った。

### ●報告対象と第2回会議の趣旨の紹介

報告する農空間を写真等で紹介。会議の趣旨について、多様な生態系機能・サービスをもつ街中の農地・農空間を保全するため、市民が農空間にふれ、農の取組にかかわり、生態系の恵みをいただく重要性の理解推進や活動の普及であると説明した。

### ●報告1「みんなでつくる みんなの のうえん」

(一般社団法人グッドラック代表理事 金田康孝)

「みんなのうえん」は住之江区北加賀谷にある農園で、まちづくり事業の一環として、農・食の専門家と市民の交流をもたらし、地域に新しい価値を生む独自の農の形を追求している。様々な年代の方々が一緒に、畑をつくることから活動をはじめ、無農薬・有機栽培による野菜作りにとどまらず、農や食によるコミュニティを活性化。生物多様性については、子どもたちの野草図鑑作りプログラムや野草を活用したコンポストの堆肥・土作りを行い、小さいながらも農地の中で循環をつくっている。

### ●報告2「食農教育応援事業」

(JA大阪市本店営農生活部長 北野善史／

JA大阪市組織活性対策課長 益田健次)

平野区のJA大阪市営農促進センターで親子農業体験「田植・寄せ植え・ジャガイモ掘り」、「稲刈・田辺大根収穫体験・サツマイモ掘り」を開催している。また、市内の小学生を対象に田植え・稲刈りの出張授業・指導も行っており、普段できない農を体験することにより、食との関係と農の重要性を理解してもらっている。

### ●報告3「昆虫畑」

(大阪府立大学大学院教授 平井規央)

大学中百舌鳥キャンパス内(堺市)に昆虫研究室の田畑の実験圃場を設けており、ナスやキュウリなど農作物の害虫モニタリング、飼育昆虫のエサ栽培、授業への活用などを役割として、殺虫剤を使わず、害虫の天敵を大切に管理研究に取り組んでいる。農薬・殺虫剤だけに頼らず、様々な防除手段で総合的に管理する考え方である総合的有害生物管理が農業の現場では広く知られているが、これを発展させ、生物多様性を知って農業生態系を適切に管理しようという考え方である総合的生態系管理の観点で適切な管理をすれば生物多様性が高まり好循環を生み出せる。生物多様性を知って農業生態系を適切に管理する、虫を知らば害虫を防げることが重要である。

### ●意見交換「サステナブルなまちなか〔農〕への期待」

「みんなのうえん」の生物多様性への影響などについて、渡り鳥の休憩地など生態系ネットワークの一部として機能している可能性が紹介され、野草図鑑作りは多様性を調べる活動と好評された。多様性の評価としては、近隣公園と園内の生物種の比較が手法の一つとして示された。JA大阪市には、トビイロウンカなど南方系害虫の米被害には、気象から予測して対策をたてるとともに、水田になるべく多くの天敵をつくることで被害が抑えられると指摘された。また、管理する農園が増えていることが紹介され、農園での取組への参加が呼びかけられた。

最後に、平井教授から「農業を行うだけで多様性が向上する」というまとめがあり、各主体の取組や取組と多様性との関係、活動の推進、協働に関する情報も共有し、有意義な会議となった。

|   |  |   |
|---|--|---|
|  |  |  |
| 報告1「みんなでつくる みんなの のうえん」(一般社団法人グッドラック 金田康孝)   | 報告2「食農教育応援事業」(JA大阪市本店営農生活部長 北野善史/JA大阪市組織活性対策課長 益田健次)                                 | 報告3「昆虫畑」(大阪府立大学 大学院教授 平井規央)   |

参加・所属団体：大阪府立大学、(一社)グッドラック、JA 大阪市、大阪自然環境保全協会(ネイチャーおおさか)、SOMPO環境財団、SOMPO環境財団CSOラーニングインターン、天王寺動物園、同志社大学生物同好会、楽農クラブ